

新地方公会計制度実務研究会（第3回）

【開催日時等】

- 開催日時：平成19年2月14日（水）15：00～17：00
- 場所：総務省4階401会議室
- 出席者：跡田座長、桜内委員、森田委員、和田委員、泉澤委員、高林委員（浜松市）、竹内委員（倉敷市）、椎川大臣官房審議官、坂本行政課長、平嶋地方債課長、青木財務調査課長 他

【議題】

- (1) 各モデルの実証的検証について報告
 - ・ 倉敷市
 - ・ 浜松市
- (2) その他

【配布資料】

- 資料1 倉敷市提出資料
- 資料2 浜松市提出資料
- 資料3 森田委員提出資料

【概要】

- 倉敷市から作業の概要と実務的な課題等について報告

<概要>

- ・ 今回、普通会計をベースに試行作業を行った。試行報告書は資料のとおり。ただ倉敷市で仮決めして行った部分も多く、様々な課題もあったため、とりあえずの取組として今後の検討材料として考えてもらえればと思う。
- ・ 作業時間の算定も行っているが、報告書が出来るまでの実質作業時間であり、そこに至るまでの試行錯誤は含めていない。これも各団体の保有資産や台帳の整備状況によってかなり変わるのではないか。

<実務的な課題等>

- ・ 地方公営企業法で作成している既存のBSと、整合性がとれていない部分がある。
- ・ 再調達価額の算定や、耐用年数の定まっていない資産の評価等、ある程度決めで行ってしまわないと、作業量が膨大になってしまう作業がある。
- ・ 建設仮勘定は、これまで普通会計をやっていた者には馴染みのない概念で、これについても道路工事の洗い出し作業等、簡素化を検討しないと非常に事務量が多くなってしまう。

- ・ 「自動変換ツール」は、まだひとつの予算科目が複数の勘定科目にまたがる場合に対応できないため、とりあえずある科目に割り当てて最終的に分ける作業をするが、これにより作業量がかなり増え、不透明になった感もある。また、かなり知識を持った職員でも仕訳変換定義の修正ができず、ツール提供側の人的支援がないと非常に困難。
- ・ 資産台帳とリンクをはかる上では、財産管理部署との協力が不可欠と感じた。
- ・ 台帳を作成しても、その精度と作業時間の増加をどのように調整するか、また専門家による検証がないと、それが正しいのかも分からないのではないかと感じた。

○出席者からの主な意見・質疑等

- ・ 耐用年数については、今年国の方で議論がされて、大きくりに変わるため、それも考慮に入れた方が良いのではないか。
- ・ 現在使っている会計データのみから作業しようとする、耐用年数の区分など苦勞があるのだろう。
- ・ 作業で苦勞した点について、企業会計においても同様に苦勞し解決されている部分もあるため、そのスキームをそのまま使うかはともかく、取り入れて見る方法もあるのでは。
- ・ データだけが精緻になっても、自治体の管理水準がそれに伴わなければ仕方ないので、最低限の基準を定めて、より精緻な方法と2段階にする方法もあるか。
- ・ 作業が大変であっても意味があるものならば付いてこられる。しかし意味を感じないとなると大変な作業は行えない。ある程度、簡略化するものの検討も必要ではないか。
- ・ 資産評価について、ガイドラインのようなものは示さなければならないのではないか。

○浜松市から作業の概要と実務的な課題等について報告

<概要>

- ・ 浜松市の作業は、まだマニュアルが未整備の段階での作業であったため、整備された状況で作業を始めれば、この報告よりも短い期間で行える作業もあると思われる。ただ、やはり売却可能資産の評価に最も時間がかかった。
- ・ 今後、浜松市としては、バランスシートを作成するだけでなく、どういう風に活用していくかも検討しながら、作成に取り組んでいきたいと考えている。

<実務的な課題等>

- ・ 連結ベースの4表は、マニュアルが未整備な現状では、市の職員では作成が出来なかった。手探りでの作成は難しい。

- ・ 浜松市においては会計の数が32あり、各4表で128。これは別の団体においてもあまり変わらない事柄だと思うが、これらの連結を手作業で行うのは大変な作業。
- ・ 既存の財務諸表からの読替は素人には困難。
- ・ 作成担当者から、整備することの意味を理解できないとの声もあり、活用する方法を示すことも必要。
- ・ かなりの作業量であり、財政課担当者だけでは困難。各担当課に作成してもらうための研修等も必要か。

○出席者からの主な意見・質疑等

- ・ 連結バランスシートについては総務省モデルの試案が出されており、全都道府県・指定都市で作成されている。そこまでならば比較的、作成も可能ではないか。確かにどこまで含めるか等の議論はあろうが、決まってしまうば作業も減るのではないか。
- ・ 意味が分からずとも、数値を入れるだけで作成できるようなマニュアルができれば、相当小規模な団体でも何とかこなしてもらえるのではないか。しかし、それで留まる団体もあろうが、これを分析して使っていこうという団体は、理解し使っていくための研修なりが必要になろうか。
- ・ 連結のマニュアルは資料3-3で出来上がったと考えて良いのか。
→ まだ、今回の実務的な課題等を受けて、修正が必要な部分はある。

○今後の作業について

- ・ 今後とりまとめに向けては、両モデルの技術的な擦り合わせといった作業や、資産評価の共通化という作業が必要となるか。
- ・ 両市とも多くの課題があがったが、倉敷市における課題は、浜松市が今後次の基準へ移行していく場合にも、同じ課題が出てくると思われる。資産評価のマニュアルを共通化し、両モデルが大きくずれないようにすることが必要か。
- ・ 基準モデルについても、改訂モデルのような作成マニュアルを整理していく予定。
- ・ 資産評価についてはワーキンググループのようなかたちで、少し内容を詰めていくこととするか。